平成二十二年度

研究所プロジェクト報告

「近代日本におけるトルコ（タタール）系イスラーム教徒にかんする基礎的研究」

【報告】研究所プロジェクト

近代日本におけるトルコ（タタール）系イスラーム教徒にかんする基礎的研究

《研究期間》平成二〇～二二年度

《研究代表者》三沢　伸生（社会学部准教授／アジア文化研究所研究員）
＊研究の総括

《研究分担者》駒井　義昭（社会学部教授／アジア文化研究所研究員）
＊東西文明交流史・比較文明史

石井　隆憲（ライフデザイン学部教授／アジア文化研究所研究員）
＊昭和前期の在日タタール系トルコ人

大澤　広嗣（大正大学総合宗教研究所研究員／アジア文化研究所客員研究員～平成二十一年度）
＊日本の仏教者と「回教政策」

《研究協力者：アジア文化研究所客員研究員》

奥山　直司（高野山大学大学院教授）
＊日本の仏教者とオスマン朝との関係史

長場　紘（和洋女子大学非常勤講師）
＊日本とトルコとの関係史全般

高橋　忠久（中近東文化センター研究員）
＊日本とトルコとの関係史全般

石丸　由美（慶應義塾大学非常勤講師）
＊オスマン語（古典トルコ語）史料分析

吉田　達矢（明治大学非常勤講師）
＊オスマン語（古典トルコ語）史料分析

福田　義昭（大阪大学非常勤講師）
＊昭和前期の「回教政策」と在神タタール人

安藤潤一郎（武蔵大学非常勤講師）
＊日本占領期の中国におけるタタール人

《研究協力者：トルコ共和国》

メルトハン・デュンダル（Merthan DÜNDAR）
アンカラ大学言語歴史地理学部准教授

ギョクニュル・アクチャダー（Göknur AKÇADAĞ）
ユルドゥズ工科大学准教授

エルハン・アフヨンジュ（Erhan AFYONCU）
マルマラ大学文理学部准教授

イブラヒム・オズトゥルク（İbrahim ÖZTÜRK）
マルマラ大学経済学部准教授

イスマイル・テュルクオウル（İsmail TÜRKOĞLU）
マルマラ大学トルコ学研究所准教授

※そのほか、研究会に参画していただいた方々、あるいは様々な研究者やトルコ共和国の方々から貴重なコメントや御意見を頂戴いたしております。紙片の関係上ここに御名前列記できませんがこの場をお借りして御礼申し上げます。

《研究目的》

近現代における日本とイスラーム世界との関係は国内・国外において長らく看過されてきた研究課題である。明治維新以降に創始された日本によるイスラーム世界への接触はやがて「回教政策」の枠内に収束していき、戦後において全面的に否定されるに至った。現代の日本においてイスラーム世界との関係は戦後復興における石油輸入に始まるかのように認識されている。戦後において戦前・戦中期における「回教政策」立案・実施の詳細は学術的に精査されることなく封印されてしまったのである。一方、同じく近代のイスラーム世界では中核を担ったオスマン帝国が、内からは構成諸民族の独立運動と外からは英仏を中心とするヨーロッパ列強の進出とによる混乱のなかにあって第一次世界大戦によって瓦解し、ヨーロッパ列強の植民地体制下に組み込まれた「中東諸国家体制」へと移行した時期にあたる。このため、イスラーム世界からは非ヨーロッパ列強への対抗手段として活用を考慮して日本への接触を図られていた。しかし日本との関係が充分に構築される前に第2次世界大戦へと至り、戦後に独立を果たした新興の中東諸国家では、戦前のように日本との関係を構築する必要性も消失してしまった。こうした背景のもとに近現代における日本とイスラーム世界との関係は、国内・国外において長らく研究されることがなかったものの、近年において地域研究の高揚にともない国内・国外においてその重要性が認識されだして複数の研究プロジェクトが始動している。本研究もこうして研究動向のもとに日本とイスラーム世界との関係にかかわる地域研究の一環として立案されている。

イスラーム世界の中でもトルコに限定して日本との関係史を対象とするのは次の理由からである。現在の日本の研究プロジェクトでは、日本の「回教政策」の再評価を中心課題として、中国・韓国・インドネシアといった東アジア・東南アジアにおけるイスラーム教徒との関係が主たる課題とされていて、イスラーム世界の中核である西アジアのイスラーム教徒との関係が充分に研究なされていない。単に日本を視座に置くのではなく、日本とイスラーム世界との関係を視座に置くとすれば、日本とイスラーム世界の中核地域たる西アジアとの関係を研究することが急務である。近現代において西アジアの大部分はオスマン帝国（１２９９～１９２２年）によって占められ、「スルタン＝カリフ制」の着想のもとに全イスラーム世界はオスマン帝国の君主たるスルタンのもとに精神的に統合されるとされていた。前近代においては陸海のシルクロードを介してイスラーム世界と東アジアとの交流がみられていたものの、近代におけるヨーロッパの台頭以後、その関係は途絶えがちに陥った。近代に至り明治維新以降、日本がイスラーム世界との接触を積極的に試みだすことによって両者の関係構築が新たに試み始められたのである。すなわち近代に創始された日本とオスマン帝国（のちのトルコ）との関係は単なる両国間の関係に留まらず、西アジアを中心とするイスラーム世界と、日本さらには東アジアという2つの異文化世界の関係を再構築するものでもあり、日本とイスラーム世界との関係史のなかでも重要な研究課題である。

具体的には日本・トルコ関係史を地域研究として学術的に研究するため、日本・トルコで史料収集を行い基礎的データベースの構築を進めながら、日本・トルコ関係史の推移過程を明らかにすること目標とする。